

大宮神社 おおみやじんじゃ



(写真:中村英祐)

後鳥羽天皇の文治元年(1185年)に創建された古社で、祭神は応神天皇、神功皇后、姫大神、大国主命、事代主命、須佐男命、菅原道真の諸神である。本殿、拝殿、遙拝所、絵馬堂などを整えた立派な神社で、古地図によると現在の神域よりはるかに広く、一の鳥居は大宮1丁目(現在高殿4丁目)あたりにあった。

ここは、京街道の「七曲がり」と呼ばれるところで、豊臣秀吉が大坂城築城にあたって京都へと通じる京街道を整備する際、大坂城の防衛線の一部としてこの付近を重視し、敵兵の数や様子を察知し、その進軍を少しでも遅らせるために、わざと街道を蛇行させたといわれている。

源義経が平家追討のため、この地を通りかかったところ靈光があつてここに神祠を建てた。以来、戦国武将の尊崇を集め、とくに豊臣秀吉は大坂城築城の際、この地が鬼門に当たることから同神社を鬼門守護神として神殿や末社を再建し、祈願所とした。明治5年(1872年)、村社になり八幡大神宮と改称、さらに同40年(1907年)には古市神社となったが、同45年(1912年)に大宮神社と改められて現在に至る。

橋の親柱には、江戸時代の年号と干支「弘化三丙午三月吉日」(*)が記されている。
※弘化3年(1846年)

■ 神社鳥居

鳥居には、江戸時代の年号と干支「寛保二壬戌年三月吉日」(*)が記されている。※寛保2年(1742年)



■ 京街道の「七曲がり」



■ 境内にある橋は、昔井路が通っていた事を物語っている。



■ 境内にある橋の親柱
(上の写真3点:中村英祐)

西形家 にしがたけ

大宮商店街に面した西形家は、代々庄屋を務めたとみられる旧家で、屋根には茅葺きだった頃の名残をとどめる。大宮神社境内にある石造の橋には、庄屋として西形家の文字が見られる。また、橋の親柱には、江戸時代の年号と干支「弘化三丙午三月吉日」(※)が記されている。
※弘化3年(1846年)



庄家 西形家

(写真: 中村英祐)



■大宮神社境内にある橋(写真: 中村英祐)
橋には「庄屋 西形」の文字が見られる。



■西形家の石垣(ひなだ)

石段、壁づたいの石垣(ひなだ)は、かつて水路があったことを物語っています。

善立寺 ぜんりゅうじ



善立寺

天文23年(1544年)室町時代、十代證如上人(しょうによしょうにん)の直弟子の周道と村人有志により浄土真宗本願寺派末寺として創建された。明治18年(1885年)、台風強雨により淀川が枚方付近で決壊し破滅的被害をもたらした「淀川大洪水」では、善立寺も天井一尺まで冠水被害を受けて過去帳等の貴重な記録を失った。当時の貴重品として、厨子(ずし)に入っている念持仏(ねんじぶつ)は、扉を閉めると枕に似ていることから、枕観音とも言われている。経本(経典)は、安政時代に木版掘りで作られた。※安政年間/安政元年(1854年)~安政6年(1859年)
昭和6年(1931年)に再建し現在に至る。



■写真左)念持仏(ねんじぶつ)



■写真右)経本